

ヨシガモ

Anas falcata Georgi
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

飛来数は増加傾向にあるが、本県における本種の渡来地は、三方五湖、大堤、北潟湖等の特定の湖沼に限られている。これらの湖沼内の環境と周辺の水田環境は、決して良好であるといえず、存続基盤が脆弱である

種の特徴

全長 48 cm。雄の後頭の羽毛は伸びて冠羽になり、ナポレオンの帽子のような形の紅紫色と緑色の光沢のある黒色、三列風切は長く鎌のような形に垂れる。雌は褐色で黒褐色の斑がある。湖沼内の水草の葉・茎・根、水田内でイネや雑草の種子等を食べる。

分 布

冬鳥として、本州中部以南に渡来するが、北海道では繁殖する。本県では、北潟湖、大堤、三方五湖、九頭竜川と真名川の合流点、小浜湾等に渡来し、個体数は数百羽までである。

生息を脅かす要因

埒となる湖沼環境の悪化、餌場となる埒周辺の水田の乾田化や転作等による餌場環境の悪化が心配される。本種の渡来地は、特定の湖沼に限られていることから、既存の渡来地の保全は重要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市 町 別	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
生息情報	○		○		○	○		○				○	○	○	○		

シマアジ

Anas querquedula Linnaeus
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息確認メッシュに限られており、生息基盤が脆弱である。また、2010年以降の記録が減少している。

種の特徴

全長 38 cm。雄の顔は赤紫色を帯びた褐色で、後頸まで伸びる太い白の眉斑がある。雌は全身褐色で黒褐色の斑があり雌雄とも嘴は黒い。流れのない、狭くて浅い水面で、主としてイネ科やタデ科等の種子や植物片、アオミドロ等を食べる。

分 布

旅鳥として全国の湖沼や川等に渡来するが少ない。北海道や愛知県では繁殖例がある。本県では旅鳥として、北潟湖、足羽川、九頭竜川下流域、狐川等で、春に少数が飛来する。

生息を脅かす要因

かつては、狐川や足羽川等で、毎年少数が記録されていたが、2010年以降は記録が途絶えがちである。かつて定期的に飛来していた生息地の環境保全と、主な飛来地での組織的な調査による実態の把握が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市 町 別	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
生息情報											○		○	○			○

シノリガモ

Histrionicus histrionicus (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

坂井市三国町や南越前町の海岸の岩礁地帯には、定期的に飛来しているが、個体数が大変少なく、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 43 cmの海ガモで、雄の頭、背、胸は、紫黒色斑と白色斑が張り分けられたように配置され、脇腹が赤栗色の特徴的な色彩をしている。雌は全体に灰黒褐色で眼先の上下と耳羽に白斑がある。越冬期は、貝類、魚類、甲殻類、ウニ類、藻類を食べる。

分 布

北海道と東北地方の溪流で少数が繁殖するが、多くは冬鳥として九州以北の岩礁地の海岸に渡来する。本県では、数羽〜20羽までの群れの記録があるが、渡来地は限られている。

生息を脅かす要因

海岸線の道路や港の整備による、岩礁地の減少の影響が懸念される。また、釣り人やカメラマンの岩礁地への接近や立ち入りが、採餌の妨げになることが考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市 町 別	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
生息情報					○		○	○			○						